



発行所 一般社団法人茨城県建設業協会
建設未来協議会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22
電話 029 (221) 5126 (代)

ホームページ <http://ibaken.or.jp/miraikyo/>
Facebook: <https://www.facebook.com/kensetsumiraikyo/>
発行人 内藤 裕一郎

令和 8 年度 基本方針

建設未来協議会 会長 内藤 裕一郎

世界各地で紛争が多発しており不安定な世界情勢に直面し平和が脅かされ、更に今年 2 月に勃発した中東紛争を発端とする原油高騰や原油製品不足に伴う物価高に拍車がかかり、地域建設業にも影響を与えています。

また、毎年のように激甚化・頻発化・局所化した自然災害が日本各地で発生し、防災・減災・国土強靱化の重要性が認識され、地域建設業の果たすべき役割も多極化・多様化しています。

加えて、地域建設業を取り巻く状況は公共建設投資の横ばいが続き実質投資額が減少している中で、資機材価格の高騰や人件費上昇・担い手不足等の影響もあり、経営環境は依然として厳しい状況にあります。

そのような情勢下で「建設未来協議会」は、地域建設業の安定的な経営基盤を構築し、ひいては住民が安心して暮らせる国土の形成に貢献すると共に、協会本部のスローガンである「地域の守り手」として地域の安全・安心のため、地域経済発展のために何ができるのかを議論し、会員相互の情報発信・共有を一層強固にしていく所存です。

少子高齢化が進む中、建設業界は今、深刻な人手不足と技能継承の課題に直面しています。若い世代が誇りを持って働ける環境を整えることが急務です。事業計画にもあるように 2026 年度も引き続き、建設フェスタや出前授業・中

学生向けの建設体験学習・建設フォトコンテスト・各地区会の地域貢献活動等の事業を通して、地域社会からの理解を深め、担い手確保・担い手育成に繋がる活

動を積極的に行い、建設業協会の青年部としての役割を全うしていきたいと考えております。

また、各発注機関様との意見交換会を積極的に開催し、受発注者間で抱える課題等を解決する糸口をつかめればと考えております。他にも、関東建設青年会議や全国建設青年会議等に積極的に参加し、会員の自己研鑽に励んでいきたいと考えております。

本年度の活動も多岐にわたりますが、会員の皆様には積極的に参加・協力のほどよろしくお願いします。また、この会を通し会員相互の親睦を深めるとともに、各社で抱える諸課題等を共有し、少しでも有意義な会となることを期待いたします。

最後になりますが、本年度も当会の運営に對しまして、協会本部・各発注者機関の皆様、関係各位の皆様のご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



令和 8 年度 第34回 定時総会を開催

総務委員会 松浦 征典

本協議会の第34回定時総会が令和8年5月14日(木)、ホテル・ザ・ウェストヒルズ水戸において会員72名出席(委任状29名)のもと開催されました。

冒頭、櫻井会長は「昨年30回の節目を迎えた建設フェスタでは7年ぶりの上棟式を行うなど大勢の来場者に建設業の魅力の一端を触れて頂くことができた」と話し、大盛況に終わったことを喜んだ上で、建設業界として「DXやICTによる技術を積極的に取り入れ、働き方改革を推進し、若年層の入社促進を図っていききたい」と意気込みを語りました。

続いて(一社)茨城県建設業協会細谷副会長は「昨年改正された品確法、下請法、熱中症対策など新たな課題に対応しながら近年頻発化、激甚化している自然災害から地域の安全を確保する守り手としての役割を果たしていかなければならない。若者が夢を持って将来を託せる魅力的な建設業となり、地域社会に貢献していけるよう活動して参りたい」と述べました。

その後は櫻井会長が議長を務め議事の進行を行った。令和7年度事業報告、収支決算、令和8年度事業計画(案)、収支決算(案)、役員改選などを審議し原案通り可決承認されました。

役員改選では新会長に株式会社内藤工務店の内藤裕一郎氏が就任し、「地域建設業の安定的な経営基盤を構築し、住民が安心して暮らせる国土



令和8年事業計画などを承認した



細谷茨建協副会長
兼竜ヶ崎支部長



櫻井会長



橋本県土木部技術管理統括監
兼検査指導課長



佐々木
常陸河川国道事務所長

の形成に貢献すると共に、地域の安心・安全の為、会員相互の情報発信と情報共有を一層強化していきたい」と新任の抱負を述べました。

議事終了後、来賓祝辞では和賀正光茨城県土木部長代理、橋本則保茨城県土木部検査指導課長より「建設業は県民の命と暮らしを支えるインフラ整備や維持管理の主役として極めて重要な役割を担っている。県においても建設業の魅力を一般の方にご理解いただけるよう活躍する姿を発信するとともに、地域建設業の持続可能な発展とさらなる生産性向上を図っていききたい」などとお言葉を頂戴しました。総会終了後は懇親会を開催し、卒業生及び新規入会者の挨拶も行われ、盛況のうちに本会は幕を閉じました。

第30回 建設フェスタ2025を開催

地域貢献活動委員会 委員長 秋山 正人

令和7年10月4日（土）第30回目となる「建設フェスタ2025」をひたちなか市笠松運動公園で開催しました。県民の皆様に建設業の役割やものづくりの魅力を広く知っていただくことを目的としたこの建設フェスタも、今回で記念すべき第30回という節目を迎えることができました。記念開催にふさわしく当日は秋風が心地よい過ごしやすいイベント日和、開始早々から行列ができるほどの大盛況となり、約16,000人ももの来場者をお迎えし、会場は終日大きな賑わいを見ることができました。

今回7年ぶりに企画された「ミニ上棟式」には、たくさんのお子たちに参加していただき、未就学児・小学校低学年生のグループでは定員オーバーするほどの大盛況でした。まき餅やまき銭を捕るために一生懸命になる子供たち、それを笑顔で見つめる親御さんの姿がとても印象的でした。

例年通り、人気を誇る建設機械の展示や重機の試乗体験に加えて、重機が音楽に合わせて動く「重機ショー」にはたくさんのお来場者に参加していただき、普段なかなか触れる機会のない体験に各所から笑顔と驚きの声が上がりました。

「消波ブロック製作体験」「親子共演丸太切り」「建設作業体験リレー」では実際に使用する材料や道具を手に取り、作業の一端を体験していただくことで、ものづくりの楽しさや働くことの意義に触れる貴重な機会を提供できたのではないかと思います。こうした体験を通じて、将来の担い手育成につながる有意義なイベントであることを改めて実感しました。

また、近年活用が進む電動マイクロシャベルや重機のシミュレーター操作体験など最新技術のブースが増えてきました。建設業が従来のイメージ



にとどまらず、最新技術を取り入れながら進化している産業であることを発信し将来の可能性を広げることができればと思います。

第30回という大きな節目を迎えた建設フェスタは、これまで積み重ねてきた改善と工夫により大盛況で終わることができました。今後もより良い建設フェスタを創り上げていきたいと思っています。

最後になりますが、今回の開催にあたりまして関係各機関ならびに企業・団体の皆様の多大なるご協力を賜り大きな事故やトラブルもなく円滑に開催できたことに改めて深く感謝申し上げます。



親子で安全・安心な遊び場づくり —10回継続で育んだ地域連携と親子参加による次世代育成の取組—

第10回砂場クリーン作戦

地域貢献活動委員会 中島 真弓

子ども達が安心して遊べる環境づくりを目的として、建設業の専門技術を活かした地域貢献活動「砂場クリーン作戦」を令和7年6月13日(金)ひたちなか市にある社会福祉法人 平磯保育園において実施しました。本活動は地域社会への貢献と次世代育成を目的に継続している取り組みであり、今回で記念すべき第10回目を迎えました。今年度は、親子参加型の活動を大切にされている保育園からのご提案を受け、初めて保護者の皆様にもご参加いただき、親子で取り組む新たな形での活動となりました。

本活動は単発的なボランティアではなく、地域との継続的な関わりを大切にしながら積み重ねてきた活動です。回を重ねるごとに地域の理解と協力の輪が広がり、建設業が地域社会を支える身



重機の迫力に夢中

近な存在として認識される機会にもつながっております。

当日は園児と保護者を合わせて45名が参加し、過去最大人数での開催となりました。保護者と一緒に作業へ取り組むことで、子ども達は安心した様子で楽しみながら参加し、親子で協力して普段遊んでいる砂場をきれいにする姿が多く見られました。笑顔で声を掛け合いながら作業する様子は、親子活動を大切にしている保育園の理念を体現する時間となりました。

園内には大小二つの砂場があるため、作業は効率性と安全性を考慮し二班体制で実施しました。作業範囲の明確化や立入管理を徹底し、参加者への安全説明を行うなど、安全管理を最優先として作業を進めました。

作業では、バックホウおよび人力による砂の掘り起こしを行い、電動振るい機と手作業による振るい分けにより、小石・木片・埋もれた玩具等を除去しました。その後、砂の補充を行い仕上げとして人体に無害な消毒液を散布し、安全で衛生的な砂場環境の整備を実施しました。



また、建設業への理解促進を目的とした体験型プログラムとして、園児たちには振り分け作業に加え、配管ブロックの組立体験、昇降機の乗車体験、バックホウの操作体験を実施しました。普段触れることのない建設機械や作業に子ども達は目を輝かせながら参加し、保護者と一緒に体験を楽しむ姿が印象的で、会場は終始、笑顔と楽しそうな声に包まれていました。

活動終了後には、保育園より心温まる感謝のお



手紙をいただくとともに、園児達が制作した作品を贈呈していただきました。子ども達の想いが込められた作品は、本活動が地域に受け入れられ、継続してきた取り組みが確かな形として実を結んでいることを実感させてくれるものであり、参加した会員一同にとって大きな励みとなりました。

第10回という節目を迎えられたことは、地域の皆様の理解と協力の賜物であり、今後も建設業の技術と経験を活かしながら、地域社会に必要とされる活動を継続し、子ども達の笑顔と地域の未来づくりに貢献してまいります。

最後に、本活動の実施にあたりご協力いただきました社会福祉法人 平磯保育園の皆様ならびにご参加いただいた保護者の皆様に、心より御礼申し上げます。また、地域貢献活動委員会を中心にご参加いただきました多くの会員の皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも地域貢献活動への変わらぬご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

建設業の必要性・やりがい伝える

県内各地で出前授業を実施

本会は、建設業出前授業を令和7年度に県内4カ所（①常陸太田市立太田中学校、②牛久市立下根中学校、③（一社）茨城サドベリースクール、④ひたちなか市立那珂湊中学校）で実施しました。

この出前授業は「職業としての建設業を正しく伝える」、「建設業の魅力と入職促進に資する情報発信」、「建設業界全体のイメージアップ」を目的に、令和6年度より実施しています。「いつまでも安心して暮らせるまちづくり～安全安心、快適な暮らしを支える建設業の役割～」を主なテーマとし、茨城県建設業協会が独自に作成した建設業について学びを得られる教育教材を使用しています。

令和7年度に実施した4カ所のうち、常陸太田



市立太田中学校では、茨城県太田工事事務所と共催で開催しました。

来年度以降も小中学校を中心に積極的に出前授業を実施していきます。

中学生がものづくりの楽しさ体験

龍ヶ崎市立龍ヶ崎中学校に倉庫建築

県南地区 前幹事 福智 勇人

令和7年度のCCI茨城（茨城県魅力ある建設事業推進連絡会議）の事業において木造倉庫建築体験、重機操作体験、従来型及び自動追尾型トータルステーション測量体験やドローン操縦体験を龍ヶ崎市立龍ヶ崎中学校の1学年生109人を対象に11月11日（火）、12月2日（火）に開催しました。

1日目は木造倉庫基礎の鉄筋を配筋しハッカーを使用し結束、バックホウ操縦体験、トータルステーション測量体験をしていただきました。

2日目は木造倉庫の構造や仕組みを学んでもらうために、重い壁材を生徒2人組で事前に立てた柱の間にはめ込む作業を行いました。また、4tコンバインドローラーの運転体験・ドローンの操縦体験を行いました。

倉庫完成後の令和7年12月23日には、引渡式を開催しました。主催者側として茨城県土木部技術管理総括監兼検査指導課長の長山公信氏、茨城県建設業協会副会長兼竜ヶ崎支部長の細谷武史氏、茨城県建設業協会建設未来協議会会長の櫻井俊一氏が出席し、龍ヶ崎中学校 五十嵐校長から感謝状の贈呈、生徒作成によるスライドショーによる謝辞をいただきました。

参加した生徒からは、「体験を通じてチームワークの重要性や安全への配慮、最新技術への興味、そしてものづくりの喜びを学んだ」と感想をいただ



ロードローラー試乗

きました。

五十嵐校長からは「今まで経験したことのない体験で、学びが深まったと思う。後輩に引き継ぎ、木造倉庫を大切に使いたい」と感謝の意を表していただきました。

先生からも「ドローンの操縦は初めてで面白かった」と言っていただけて、開催した意義を感じることができました。この体験を通して、生徒たちが少しでも建設業への魅力を感じ興味を持ち、職業選択の際は候補のひとつに上がれば幸いです。また継続して若い世代へ我々業界のことを伝えていく努力を続けていこうと思います。

最後に、この事業に参加協力していただきました各関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



倉庫組立



ドローン写真

いばらき建設フォトコンテスト2025を開催

社会コミュニケーション委員会 副委員長 中川 喜夫

“いばらき「建設フォトコンテスト2025」”は、建設業が地域の暮らしを支え、未来のまちをつくっていることを、写真を通じて多くの方に感じていただく取り組みです。「建設のある茨城の風景」と「人と建設のつながり」の2部門で作品を募集し、Web応募727件、Instagram応募257件、合計984件もの作品が寄せられました。昨年度を上回る多くのご応募をいただき、建設業への関心の広がりを実感しております。計40作品の受賞作品は、建設フェスタ2025での展示に加え、水戸・つくばのショッピングモールにおいて、建設現場を描いた図画コンクールの作品とともに展示会を開催し、お子様連れのご家族をはじめ、多くの地域の皆様にご覧いただきました。また、受賞作品はInstagramやFacebook等で紹介するほか、茨城県建設業協会のカレンダーにも採用し、昨年



度は3,800部を制作・配布いたしました。これからも、建設業の魅力を身近に伝え、地域社会とのつながりを育む事業として、本コンテストを継続してまいります。今後とも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

イーアスつくばで建設業体験会

副会長（社会コミュニケーション担当） 田口 富之

令和7年11月15日（土）に第3回建設業体験会を建設フォトコンテスト・建設現場を描いた図画コンクールの展示会会場でもあるイーアスつくばにて実施しました。建設業体験会は次世代の担い手となり得る子供たちに高所作業車や最新の重機に乗ってもらうことにより、建設業に対する理解を深め、更なる興味を持ってもらうために実施しております。今回の建設業体験会は事前告知が無かったにもかかわらず700名（子供280名、保護者420名）もの方が訪れてくれました。

茨城県労働局の発表によると令和8年3月末現在における高校卒業の生徒について、建設業の求人数は1673人に対して内定者は282人となり、求人数に対して内定者の割合は16.9%と、まだまだ若年者の入職が少ないことは間違いありません。建設業体験会や令和6年度より開始された出前授業をできるだけ多くの地域で実施していくこと



により、建設業の魅力を多くの子供たちに伝え、将来の職業選択の一つとして「建設業」が選ばれるような活動を増やしていきます。

結びにこの建設業体験会にご協力賜りましたイーアスつくば・日立建機株式会社、皆様に心から御礼申し上げ、ご報告にさせていただきます。

円滑な業務へ行政機関と意見交換会

常総国道事務所・北首都国道事務所

県南地区 前幹事 福智 勇人

令和7年12月8日（月）、常総国道事務所において、意見交換会を開催しました。常総国道事務所中谷文治事務所長、北首都国道事務所佐藤潤事務所長をはじめとする幹部職員の方々にご出席いただきました。

議事では、関東地方整備局から主要事業の概要説明・進捗状況について説明があり建設未来協議会から機関誌（NEXT）や建設フェスタ2025、砂場クリーン作戦、いばらき建設フォトコンテスト、建設体験学習、各地区会における意見交換会、出前授業や現場見学会など様々な活動

について報告しました。

続く意見交換会では、積算・入札・契約・施工等での質問及び改善要望などについて、意見を交わし工事の円滑な施工や働き方改革、担い手確保に向けた取り組みや建設DXの推進、3次元モデル（BIM/CIM）活用の推進、現場の熱中症対策、小規模工事ICT施工活用に関する地域の実情など踏み込んだ内容の意見交換を活発にさせていただきました。

発注者及び建設未来協議会からも忌憚のない意見が出て、とても有意義な意見交換会となりました。

下館河川事務所

監事 菊池 健郎

令和7年12月3日（水）下館河川事務所との意見交換会を開催しました。下館河川事務所からは青木孝夫事務所長をはじめ多くの事務所関係者の方々にご参加いただきました。

意見交換会では冒頭のあいさつで、下館河川事務所の青木所長より労働時間や休日日数の確保、担い手確保のための働き方改革という課題について述べられ、建設未来協議会の櫻井会長からは全国各地で様々な自然災害やインフラの老朽化による事故が発生しており、改めて防災・減災・国土強靱化の重要性が強く認識されたと共に、我々地域建設業者は災害発生時には即座に対応にあたる「地域の守り手」としての重要な役割を果たして行かなければと思っていると述べられました。

議事では、下館河川事務所より令和7年度の

事業概要の説明、関東地方整備局の取組みとして「品格法の改正と運用方針の策定」「直轄工事における盗難被害状況」について説明していただき、未来協議会からは設立の目的や会員数などの「未来協議会の組織について」建設フェスタやボランティア活動などの「地域貢献活動について」建設フォトコンテストなどの「イメージアップに向けた取り組みについて」インターンシップや現場見学会などの「担い手確保に向けた取り組みについて」その他、発注者との意見交換会やチャリティー金贈呈などの活動等を紹介しました。

質問・要望事項をフリーディスカッション形式にて行い、同じ空気感を持ってとても有意義な意見交換会ができました。

高萩工事事務所・太田工事事務所

高萩・太田地区 幹事 石井 貴之

令和7年12月4日（木）茨城県建設業協会高萩支部会館において、高萩工事事務所・常陸太田工事事務所合同意見交換会を開催しました。

高萩工事事務所からは磯野所長、常陸太田工事事務所からは皆藤次長兼道路整備課長をはじ

めとする9名の方にご出席いただきました。

意見交換会の内容については、まずはじめに高萩工事事務所より『土木部における働き方改革の促進・生産性向上に向けた主な取り組み』、常陸太田工事事務所からは『地震発生時等の道路・

河川パトロールにおけるWebexの活用』などの情報提供をいただきました。その中でもWebexの内容に参加関係者が興味を持ち、常陸太田工事事務所がすでに活用している道路・河川パトロール時の開始報告・結果報告をフォーム化した集計作業の迅速化を図る『道路・河川パトロール支援シ

ステム』を高萩工事事務所もぜひ運用したいと意見を頂きました。

続いて、『災害対応・維持管理について』『現場管理及び工程管理・設計図書について』『ASP・Webex運用について』などの質疑応答を行い、有意義な意見交換会を行うことができました。

茨城県土木部

監事 河野 真

令和7年11月21日（金）、茨城県建設業協会5階会議室において、茨城県土木部と建設未来協議会による意見交換会を開催しました。

茨城県土木部からは、検査指導課より平間貴司技佐兼課長補佐（技術総括）、織裳幸子課長補佐、宮永慎也課長補佐をはじめ、8名の方々にご出席いただきました。

意見交換会では、まず活動報告として、未来協議会によるCCI活動の実施状況、建設フェスタの内容、フォトコンテスト受賞作品などについて報告を行いました。

その後、会員から寄せられたアンケート結果について、茨城県土木部よりご回答をいただき、意見交換を行いました。アンケートの主な内容は、①ICTの活用について、②総合評価方式による発注について、③ASPの活用について、④真夏の作業について、の4項目でした。

各項目については会員から多くの質問が寄せら

れ、茨城県土木部より丁寧な回答をいただくなど、活発な意見交換の場となりました。

最後に、茨城県土木部より遠隔施工に関する体験会の案内があり、今後の建設業における課題や問題点について、官民一体となって解決していくための情報提供を頂きました。

本意見交換会で交わされた質疑応答が、会員の皆様にとって課題解決の一助となることを期待しております。



小学生とベンチ付きテーブルを製作

鹿行地区 前幹事 鍋木 大輔

令和7年12月12日（金）鉾田市立大洋小学校において、同校の5年生60名を対象に体験学習を開催しました。電動工具（インパクトドライバー）を使用して、ベンチ付きテーブルの製作を行いました。

参加した生徒のほとんどが、電動工具の使用は初めてでしたが、当地区会員の指導のもと、グループごとに協力しながら作業を進めました。

子どもたちが真剣な表情で取り組む姿や、ものづくりの楽しさを肌で感じている様子がとても印象的でした。この体験学習を通じて、建設に関わ



る仕事への興味が深まり、将来の職業選択の一つとして考えるきっかけになればと願っています。

先端技術や事例学ぶ／DX体験会応用編に参加

社会コミュニケーション委員会 副委員長 生田目 憲明

令和8年1月20日（火）、つくば市の国総研建設DX実験フィールドで開催されたDX体験会（応用編）に社会コミュニケーション委員会に参加しました。

座学では、国土技術政策総合研究所より「ICT施工等の推進について」と「3次元デジタルデータの迅速かつ手軽な取得・作成を目指して」について、ご説明いただきました。

続いて体験フィールド会場のブースを回り、3Dスキャナーやモバイルスキャナー、自動追尾TS+ソフトの連携、ARといった普段の現場に生かせる技術を体験したほか、リモートコン

トロールショベルやチルトローテーター付きの多関節型作業機械「スパイダー」の操作体験など、最先端技術に触れてDXの将来性、災害時の重機操作を体験しました。県からは土木部発注工事におけるICT活用等の取り組みについて展望及び展開を解説いただきました。

この体験会は国土交通省国土総合研究所、茨城県土木部検査指導課、茨城県建設業協会的主催で開催され、ICT活用による人材の省力化及び製品制度の向上及び現場工事費圧縮等について学ぶことができました。



乳児院へチャリティー金 寄付

本年も社会貢献活動の一環として、当協議会のチャリティーゴルフコンペ収益金を令和8年3月27日（金）に水戸市内で日本赤十字社茨城県支部乳児院へ寄付しました。

本会は社会貢献活動の一環として、チャリティー収益金を全国の被災地や県内の児童養護施設へ寄付しており、児童養護施設等への寄付は、今回で8回目となります。

寄付金を受け取った乳児院の星川欣明管理監からは「大変ありがたい限り。子どもたちの健やかな成長のため、活用させていただきます」と、お礼の言葉を頂きました。



第30回 全国青年会議全国大会を開催

30回目となる全国建設青年会議全国大会が令和7年12月5日（金）中部ブロック主幹のもと「コンストラクションプライド～想いを共有し、そして伝えよう～」をテーマにリーガロイヤルホテル東京（東京都新宿区）で盛大に開催され、全国9ブロックから若手経営者ら約600名が参加しました。

まず、大会会長の岡田司氏が挨拶し、金子恭

之国土交通大臣が来賓挨拶を行いました。

大会では、国土交通省の廣瀬昌由技監が特別講演を行ったのち、「わたしのコンストラクション・プライド」と題した、各ブロック代表によるピッチコンテストを開催。関東ブロック代表として本会の長山朋之副会長が登壇し、若手人材の確保に向けた取り組みを紹介しました。

関東建設青年会議を開催

令和7年9月26日（金）ホテルブリランテ武蔵野にて、令和7年度通常総会ならびに国土交通省関東地方整備局との意見交換会を開催しました。当会議は、関東地方各県建設業協会に所属する若手経営者により組織されています。

総会では、会員相互の情報発信・共有を掲げた事業計画（案）や昨年度の事業報告について

報告・承認されました。また関東ブロック主幹で開催する全国建設青年会議の内容を確認しました。

続けて、同会場で関東地方整備局幹部と当青年会議で、建設業界を取り巻く課題や新技術・施策などに関して意見を交わしました。

各県の事業やASPについて意見交換 北関東三県建設業協会青年経営者等合同会議

令和7年9月17日（水）茨城県水戸市（ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸）において、「北関東三県建設業協会青年経営者等合同会議」を開催し、北関東三県建設業協会とオブザーバーの千葉県から若手経営者らが参加しました。

会議では、各県での活動状況や建設業協会としての人材確保に向けた取り組み、情報共有システムの活用状況などについて意見を交換しました。

本会議は、各県の建設業協会に所属する若手経営者らが建設産業のあるべき姿と方向性を議論・検討するとともに、各県の活動内容を把握する目的で、平成24年度に栃木県を主幹としてスタートしました。今後も親交を深めると共に、お互いが抱える問題・課題について解決の糸口が見えるような有意義な会議を継続して開催していければと考えております。

令和 8・9 年度 役 員 名 簿

No.	新任	地 区	役 職	氏 名	商 号
1	新	水 戸	会長	内 藤 裕一郎	(株)内藤工務店
2		大宮・大子	副会長	長 山 朋 之	長 山 工 業 (株)
3	新	大宮・大子	副会長	高 野 弘 康	(株)高野工務店
4	新	水 戸	副会長	田 口 富 之	(株)田口工務店
5	新	鹿 行	総務委員長	石 津 弘 敏	常総開発工業(株)
6	新	水 戸	地域貢献活動委員長	秋 山 正 人	(株)秋山工務店
8		県 南	社会コミュニケーション委員長	鈴 木 亮	北都建設工業(株)
9	新	水 戸	地区幹事	仙 波 秀 教	仙 波 建 設 (株)
10		高萩・太田	地区幹事	石 井 貴 之	(有)石井建設
11	新	大宮・大子	地区幹事	浅 川 宗 典	(株)浅川建設
12	新	鹿 行	地区幹事	齊 藤 卓 也	(株)斉藤建設工業
13	新	県 南	地区幹事	齋 藤 誠	(株)斉藤建設
14	新	県 西	地区幹事	仁 平 大 介	(株)仁平工務店
15	新	大宮・大子	監事	河 野 真	(株)河野工務店
16	新	県 南	監事	浅 野 麻由美	浅 野 物 産 (株)
17	新	県 西	監事	菊 池 健 郎	(株)菊池土建
18	新	県 南	顧問	櫻 井 俊 一	櫻井建設工業(株)

●令和 7 年度 新規入会者

No.	地 区	氏 名	商 号
1	水 戸	野 口 大 輝	(株)涸沼建設工業
2	鹿行(潮来)	中 島 康 孝	(株)富山園建設
3	鹿行(潮来)	保 立 洋 佑	(株)宏洋
4	高萩・太田	石 崎 真 史	珂北開発(株)
5	高萩・太田	小 林 啓 弥	日立商事(株)
6	大宮・大子	千 葉 一 慶	東水建設(株)
7	県南(竜ヶ崎)	山 田 悠 真	サン建設工業(株)
8	水 戸	小 口 啓 輔	東建設(株)
9	県南(竜ヶ崎)	伊 藤 稜 大	(株)伊藤建設

●卒業された皆さん

No.	地 区	氏 名	商 号
1	高萩・太田	鈴 木 欽 一	(株)鈴木組
2	県西(筑西)	小 倉 健太郎	(株)小倉工務店
3	県西(常総)	柴 信 一	旭建設工業(株)
4	県西(常総)	野 口 高 生	野口機設工業(株)
5	県西(境)	染 谷 真 一	(株)染谷建設工業



編 集 後 記

令和 8 年 4 月から始まった子ども・子育て支援金制度は、「独身税」と呼ばれることもございますが、実際には独身の方だけでなく、多くの方が広く負担する仕組みとなっております。金額としては月に数百円程度からのスタートとされており、大きな負担とまでは感じにくいかもしれません。ただ、現場のことを思い浮かべますと、少し気になる点もございます。日々の工程を支えているのは、若手の方や単身で働いている方々であることも多く、収入や手取りへの変化には敏感でいらっしゃるのではないのでしょうか。

わずかな負担であっても、それが積み重なることで、働き方や職場の選び方に影響してくる可能性もございます。人材の確保や定着に取り組まれている企業の皆様にとっても、こうした変化は無関係とは言い切れないように感じられます。

一方で、少子化への対応が重要であることも事実でございます。将来の担い手を考えますと、業界としても関心を持たざるを得ないテーマではないのでしょうか。皆様の現場では、どのようにお感じになりますでしょうか。本制度をきっかけに、働きやすさや人材について、改めて考える機会になればと思います。